

プレスリリース VOL.4

色彩で叫ぶ！

ニューヨークを拠点に世界を魅了する 現代美術家、松山智一の個展

松山智一展 FIRST LAST

supported by UNIMAT GROUP

2025年3月8日(土)～5月11日(日)

会期中無休

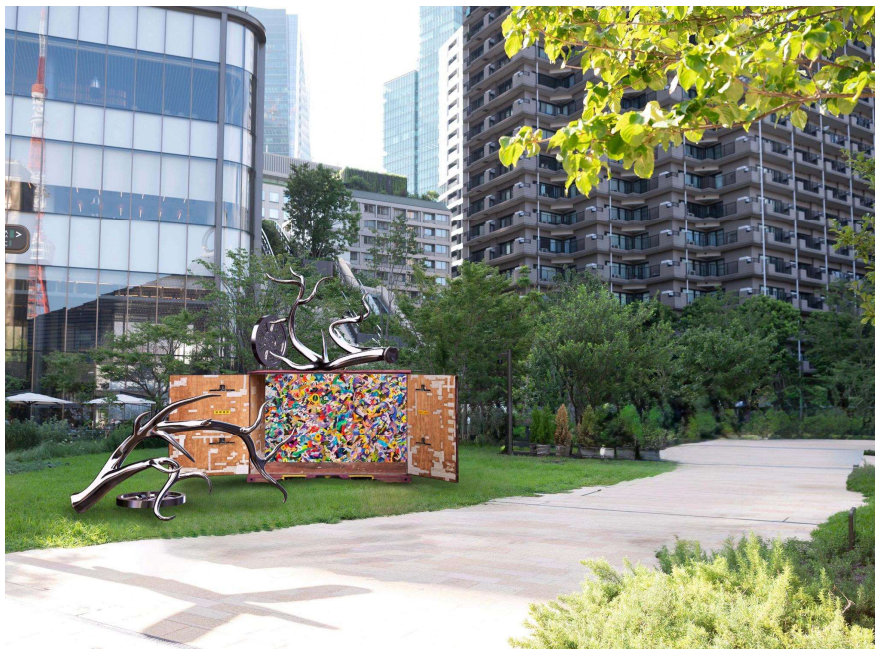
麻布台ヒルズ ギャラリー(麻布台ヒルズ ガーデンプラザ A MB 階)

野外展示が追加決定!! 麻布台ヒルズ 中央広場

展示期間：2025年3月4日(火)～2025年4月末予定

展示時間：9時～21時

展示場所：麻布台ヒルズ 中央広場



パース左：《Double Jeopardy》

パース右上：《Wheels of Fortune》

パース右下：《All is Well Blue》

松山智一展を記念して、麻布台ヒルズ 中央広場に作品の拡張展示が決定！

2025年3月8日(土)から5月11日(日)まで、ニューヨークを拠点にグローバルな活躍を見せるアーティスト松山智一の東京で初となる大規模個展「松山智一展 FIRST LAST」が、東京の新たなアートのスポット・麻布台ヒルズ ギャラリーで開催されます。

このたび、本展開幕に先駆け、2025年3月4日(火)から、麻布台ヒルズ 中央広場で、松山智一の野外作品3点が期間限定で展示されることが決定しました。麻布台ヒルズは、“街全体がミュージアム”となることを目指し、およそ8.1ha(ヘクタール)の広大な敷地に、麻布台ヒルズ ギャラリーをはじめとする文化施設やギャラリー、パブリックアートを設置しています。これは、アートは美術館という閉じた空間で限られた人のみに鑑賞されるのではなく、社会の中に解き放たれ、文化のインフラとして機能することを考え続けてきた松山智一の想いと共鳴することから、中央広場での作品展示が実現しました。

| 作品紹介 《Wheels of Fortune》・《Double Jeopardy》

一対の彫刻作品は鏡面仕上げをされていて、神道(しんとう)で神様の使いとされる鹿の角と、神様を象徴すると言われる鏡に見立てた車のホイールのようなものが組み合わせられています。彫刻は人工的でラグジュアリーなものにも使われるようなステンレス鋼を用いて、神聖なものと工学的なものの距離感をはかり、私たちのリアリティを追求した作品です。

| 作品紹介 《All is Well Blue》

日本帰国時に能登半島を襲った震災に直面した松山智一が、貨物用コンテナを避難場所「シェルター」に見立てた作品です。中に千羽鶴モチーフにした抽象画のイメージをあしらひ、日本人の千羽鶴を折るによって祈りを伝える精神性を表現しています。豊かな恵みをもたらしてくれるのが自然であれば、時に災害や大きな被害をもたらすのも自然です。松山智一によって麻布台に出現したこのインスタレーション展示は、自然の恩恵や脅威と向き合い、レジリエンスによって歴史を紡いできた人間の精神を象徴するかのようです。

※展示期間等の最新情報は展覧会公式サイトにてご確認ください

※天候状況により、一部作品の公開が中止になる場合があります。

本展のみどころ



本展は四半世紀にわたって現代アートの本場ニューヨークで活動し、いまや世界が注目する次世代のアーティストのひとりとなった松山の日本初公開となる大規模作品 15 点を含む、約 40 点が展示されます。さらに、展覧会タイトルにもなる、新シリーズ「First Last」を発表します。松山の特異なアイデンティティを通して捉えたグローバルな現代社会のリアリティを、迫力ある色彩と壮大なスケールの絵画で体感いただける展覧会です。

■キャリアを変えたあの大作から最新作まで！日本初公開作品、15 点を含む作品群でその軌跡をたどる

これまで上海やヴェネツィア、ロンドンなどで発表され、海外でしか見ることの出来なかった日本初公開作品や最新作 15 点など、代表作と合わせて約 40 点が展示されます。壮大な絵画や空間に広がる巨大な立体など、松山智一の近年の作品群が東京・麻布台ヒルズ ギャラリーで一堂に会します。

■眩いばかりの色彩の中に多文化の十字路を体験する

松山の絵画から放たれる眩いばかりの色彩は最大の特徴の一つ。自身で作った何千という色のストックが様々な技法によって、キャンバスの上で共鳴します。世界を彩る多様な文化、伝統、宗教、そして歴史的なものや現代的なもの、さらにはハイカルチャーから日常品といった要素は、松山によって無数の色で描かれ、情報化の中で移ろう現代社会の姿を映し出し、混然一体となって鑑賞者を色彩の世界に没入させます。

■新シリーズ「First Last」（後の者が先になり、先の者が後になる）

二極化が進む政治が引き起こす分断、格差や対立、ジェンダー平等のパラドクス、情報操作やフェイクニュースなど、混沌とした現代社会において松山は常に問いを立て続けます。はたして我々は何によって報われるのか？本シリーズでは松山が、アメリカ社会が抱える諸問題を起点に、自身の特異な背景がもたらす独自の視点を通して世界を捉えなおし、芸術によって新たな共感を創り出します。

展覧会図録



近年の主要作品から、展覧会のタイトルにもなった最新シリーズ〈First Last〉まで、ディテールを加えた100点以上の図版をフルカラーで紹介。美術評論家・建畠哲による論考、ISSEY MIYAKE のデザイナー・宮前義之との対談、主要作品のストーリー解説など、松山智一の活動の現在地を包括した一冊です。

3,520円(税込)

展覧会グッズショップ(麻布台ヒルズ内)で販売

仕様:A4 版変形(Y 223×T 278 mm)、上製本+ジャケット巻、208 ページ(フルカラー)

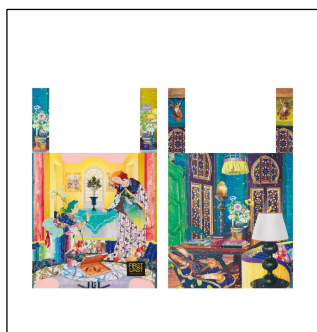
920 円お得になる「図録付チケット」を販売中です

■図録付チケット 5,000 円(税込)

展覧会関連グッズ

本展の展覧会関連グッズも充実しています。松山智一の豊かな色彩をいかしたデザインアイテムや日本の伝統菓子とのコラボレーション、またトリビュートグッズとして世界的なファッションブランドやメーカーとのタイアップグッズも販売予定。世界を舞台に多様な文化背景をもつ松山らしい様々なグッズが展開されます。

○ビッグサイズエコバッグ



4,400円(税込)

作品を全面に使用した大きめサイズのエコバッグ。大容量で肩にかけられるような機能性はもちろん、デザインの配置にもこだわりました。入館チケットとセットになった限定チケット(6,100円/税込)もお得です。

○ピンズコレクション(全5種)



500円(税込) / 1回

小さいながらも特徴をしっかり詰め込んだピンバッジ。カプセルトイで販売の為、何が出るかは楽しみです。ぜひ、コンプリートを目指してみてください。

○花咲くお煎餅



1,080円(税込)

作品を全面にデザインした巾着の中には、花々をかたどった、色とりどりのおせんべいが入っています。ご自宅用はもちろん、ギフトにもオススメです。

○ドリップバッグ 3P クリアケース入り



756円(税込)

1928年横浜に誕生し、日本にコーヒー文化を浸透させた「キャラバンコーヒー」が、「松山智一展 FIRST LAST」のためだけに製造した3種の絵柄が入ったドリップバッグセットです。

*グッズの写真はいずれもイメージ画像

展覧会与連携したプロジェクト

「Tribute + Collaboration」が始動！

松山智一が、日本国内の様々なクリエイターと協業し、作品や限定商品を展示、販売するプロジェクト「Tribute + Collaboration」(トリビュート・コラボレーション)がスタートしました。

詳細は下記 WEB サイトを参照ください。

<https://matzu.net/collaboration/>

本展について アーティストからのメッセージ

多様な文化が交錯するニューヨークで 20 年以上活動し、日本とアメリカというルーツを持つ自身にとって東京での展覧会は大きな意味を持ちます。国や言語、文化や世代を超えていま同じ時代を生きる私たちだからこそ感じるがあると思っています。作品世界に足を踏み入れ、鑑賞者としてだけでなく、作品への参加者、対話者として体験してもらえればと思います。



松山智一 Photo: FUMIHIKO SUGINO

松山智一 | MATSUYAMA Tomokazu

現代美術家。1976 年岐阜県生まれ、ブルックリン在住。絵画を中心に、彫刻やインスタレーションを発表。アジアとヨーロッパ、古代と現代、具象と抽象といった両極の要素を有機的に結びつけて再構築し、異文化間での自身の経験や情報化の中で移ろう現代社会の姿を反映した作品を制作する。パワリミューラルでの壁画制作（ニューヨーク／米国、2019 年）や、《花尾》（新宿東口駅前広場、東京、2020 年）、《Wheels of Fortune》（「神宮の社芸術祝祭」明治神宮、東京、2020 年）など、大規模なパブリックアートプロジェクトも手がけている。近年の主な展覧会に、「Mythologiques」（ヴェネツィア／2024 年）、「松山智一展：雪月花のとき」（弘前れんが倉庫美術館／2023 年）「MATSUYAMA Tomokazu: Fictional Landscape」（上海宝龍美術館／2023 年）がある。2025 年 2 月までパリのルイ・ヴィトン財団でも作品を発表している。

本展キュレーター 建畠哲氏からのメッセージ

古典古代と現代、西洋と東洋といった対極的な光景を、他に類を見ない文化的包容力でサンプリングし、私たちを魅了する壮麗なスペクタクルを生み出すアーティスト、松山智一。その不可思議で遠心的なハーモニーとも言える世界は、アイデンティティの多重性が誰にとっても避けられないテーマとなった現代に対する、非常に鋭い批評でもあります。

建畠哲 | TATEHATA Akira

（美術評論家・詩人／埼玉県立近代美術館長、草間彌生美術館長、京都芸術センター館長、京都市立芸術大学及び多摩美術大学名誉教授 国立国際美術館主任研究官、多摩美術大学教授、国立国際美術館長、京都市立芸術大学学長、多摩美術大学学長、コロンビア大学訪問研究員などを歴任。美術館と大学で現代美術の展覧会企画や教育研究に携わるとともに、ヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナー（1990、1993）、横浜トリエンナーレ（2001）、あいちトリエンナーレ（2010）、東アジア文化都市京都「アジア回廊」展（2017）など国際美術展の芸術監督を務めてきた。受賞歴はオーストラリア国家栄誉賞、文化庁創立50周年記念表彰、京都市文化功労者。詩人としては、歷程新鋭賞、高見順賞、萩原朔太郎賞を受賞している。

| プレス内覧会のご案内 |

開幕前日 3 月 7 日(金) 13:30-15:30

開幕前日3月7日(金)、プレス向け内覧会を開催します。当日はニューヨークより、松山智一氏も来日し、本展のみどころ、展示解説のツアーを実施します。ご取材希望の方は右記 URL よりエントリーください

<https://bit.ly/3CAE8aU>

[開催概要]

展覧会名 松山智一展 FIRST LAST supported by UNIMAT GROUP
Tomokazu Matsuyama FIRST LAST supported by UNIMAT GROUP

会期 2025 年 3 月 8 日(土)～5 月 11 日(日) 会期中無休

会場 麻布台ヒルズ ギャラリー(麻布台ヒルズ ガーデンプラザ A MB 階)

開館時間 月・火・水・木・日 10:00～18:00(最終入館 17:30)
金・土・祝前日 10:00～19:00(最終入館 18:30)

チケット料金[日付指定制] (税込・全て音声ガイド付き)

	会期前(～3/7)	会期中(3/8～)	
	早得チケット	オンラインチケット	窓口チケット
一般	1,900 円	2,200 円	2,400 円
専門・大学・高校生	1,400 円	1,700 円	1,900 円
4 歳～中学生	900 円	1,100 円	1,300 円
4 歳未満	無料	無料	無料

*早得チケット取り扱い窓口:フジテレビダイレクト・ローソンチケット

*オンラインチケット取り扱い窓口:麻布台ヒルズ ギャラリー専用オンラインサイト・フジテレビダイレクト・ローソンチケット

*店頭購入:セブンイレブン、ローソン

*団体割引販売 | 15 名以上の場合は団体割引あり。詳細は事前に麻布台ヒルズ ギャラリーへお問合せください

*その他、チケット購入に関する<注意事項>は、展覧会公式サイトに掲載しています

平日窓口チケット限定インスタフォロー割

一般/2,100 円 専門・大学・高校生/1,600 円 4 歳～中学生/1,000 円

本展公式インスタグラムをフォローいただくと、割引価格で入館いただけます。(平日・窓口販売のみ)
ご希望の方は当日麻布台ヒルズ ギャラリーインフォメーションカウンターにて、「松山智一展 FIRST LAST」のインスタフォロー画面をご提示の上、ご購入ください。

主催 松山智一展 FIRST LAST 実行委員会

特別協賛 **ユニファットグループ**

協賛 インバストメントプロパティコンサルタンツ、ジャヌ東京、ジンズホールディングス、南山堂ホールディングス、Moonshot

協力 MATSUYAMA STUDIO

キュレーター 建畠哲

展覧会公式サイト www.tomokazu-matsuyama-firstlast.jp

SNS_アカウント Instagram: @matsuyama_firstlast
X: @FIRSTLAST2025

問い合わせ azabudaihillsgallery@mori.co.jp

アクセス: 東京メトロ日比谷線「神谷町駅」5 番出口直結
東京メトロ南北線「六本木一丁目駅」4 番出口徒歩 8 分

<プレスの方からのお問い合わせ>

「松山智一展 FIRST LAST 広報事務局」鎌倉・進藤(N&A 内)

E-mail matsuyama.firstlast@nanjo.com

〒153-0051 東京都目黒区上目黒 1-11-6 TEL 03-6261-5784 FAX 03-6369-3596